

院長 コラム

一緒に考えましょう
健康のこと
医療のこと

68

新型コロナウイルスに対する ワクチン接種が始まります



市民病院
院長 神谷里明

ワクチンは健康な人に対して接種するものであり、有効性はもちろんのこと、高い安全性が求められます。新型コロナウイルスに対するワクチンが今までの他のワクチンと大きく異なることは、短期間で開発され、短期間で有効性、安全性を確認する治験を行い、短期間で各国で承認され接種が始まったことです。ワクチン接種後短期間の観察では重大な副反応（副作用）はアナフィラキシー（急激なアレルギー反応）以外は見られないようですが、まだ接種された人も多くはなく、また長期にわたる副反応の有無についてはまだわかっていません。今後のデータの積み重ねが必要です。

今回ワクチンが有効というのはウイルスに感染しなくなるということではなく、感染しても発症しにくいということと、重症化しにくいということです。ただしいつまで有効なのかはまだはっきりしたことはわかっていません。またワクチンの有効性は個人に対する有効性と、社会に対しての有効性と2つあります。国の政策として行うのは個人に対するものもありますが、社会に対して有効なワクチンを国民に推奨するものです。

ワクチンの目的は社会において集団免疫を成立させることです。集団免疫とはある一定の割合以上の人が免疫（抗体）を持っていればその社会で感染が広がりにくくなり、抗体を持っていない人も感染しにくくなることです。そのためには社会において一定割合以上の人がワクチン接種を受けることが必要になります。まだ副反応の割合、種類、程度がはつきりしない時期にワクチン接種を受けることは不安もあると思いますが、ワクチンを最大限有効にするためには出来るだけ多くの人に接種してもらうことが必要です。ただし、これは強制的に行うものではなく一人ひとりがワクチン接種の目的を理解し、利益、不利益を考えて判断し、自主的に受けるものです。ワクチンが安全に有効に働いてコロナ感染症が消退することを望んでいます。